

RMIT（ロイヤルメルボルン工科大学） エグゼクティブ研修

「Innovation Districts ～ Barcelona Urban Safari Program」
SCI-Japan・RMIT主催

2025年11月7日(金)～11月11日(火)

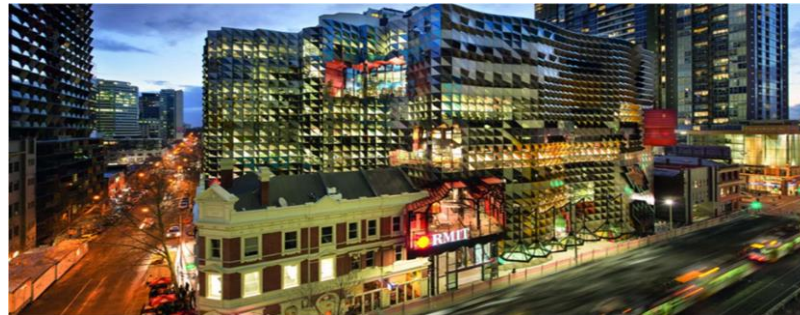
一般社団法人スマートシティ・インスティテュート



お申込み、お問い合わせは
こちらから

RMIT エグゼクティブ研修・バルセロナ 概要

- SCI-Japanは、世界の新しい潮流として注目を集めるイノベーションディストリクトの22@バルセロナにおいてRMIT（ロイヤルメルボルン工科大学）と協働して、SCI-Japan会員向けに新しいエグゼクティブ研修プログラムを開発しました。
- RMITは、メルボルンとバルセロナの各々のイノベーションディストリクトのど真ん中に位置するトップランナー的な存在です。RMITは地域幸福度指標（LWCI）の源流となるLiveability Indicatorを持つ大学としても有名です。SCI-JapanはRMITと連携協定を締結し、LWCIの開発に向けて、Liveability Indicatorに主観指標を加えて、日本の文化的特徴である協調的幸福感に関する要素を加えたという経緯があります。
- イノベーションディストリクトでは、起業家、最先端の研究機関、大学、企業等に支えられ、研究開発（R&D）や高度な知識集約活動が推進されています。バルセロナにおけるイノベーションや都市再生に係る政策、実践など、今後の日本の都市政策のコアとなる領域について、RMITの教授が最前線の講義、ワークショップや視察を行います。
- 研修会場であるRMIT欧州本部は、22@バルセロナの中心地に位置し、イノベーションディストリクトを肌で感じていただけます。参加者の皆様へは事前資料を配布し、理解度を高めたうえで、本研修に参加いただきます。
- 本研修はSCI-Japan主催のSmart City Expo World Congress出展・視察研修プログラム終了後に開催されますので、ぜひ併せてご参加をご検討ください。本研修のみのご参加も歓迎しています。



研修プログラムスケジュール（予定）

日 程	主なスケジュール（予定）
11月 7日（金）	第1日: イノベーションディストリクト 【午前】 イントロダクションと研修テーマの紹介 講師： Professor Andrew Butt, Dr. Marta Fernandez, RMIT 【昼】 スーパーブロック視察 【午後】 都市政策とステークホルダーのエンゲージメント 講師： Xavier Guarderas氏、バルセロナ都市生態学庁 【夕食】 グループディナー
11月 10日（月）	第2日: リジェネラティブとイノベーションディストリクト 【午前】 22@ Innovation District 講師： Josep M. Pique氏（現ラモン・リュイ大学, 前22@Network Barcelona ディレクター） 【昼】 ワークショップ 【午後】 スペイン・ガストロノミー 講師： Nevelina Pachova氏、RMIT
11月 11日（火）	第3日（最終日）: リジェネラティブな都市の未来 【午前】 都市のイノベーションとチャレンジ 【昼】 研修総括と授与式 【夕食】 グループディナー

イノベーションディストリクトとは（その1）

本研修の教材の一つである「What are Innovation Districts?」のレポートは、イノベーションディストリクトの研究で世界をリードするGlobal Institute on Innovation Districts（GIID、本部ニューヨーク）とSCI-Japanで協働して、日本語翻訳しました。以下が本教材もふまえたイノベーションディストリクトの要点です（SCI-Japanで一部補足）。

【イノベーションディストリクトとは】

■イノベーションが起こる地域は、過去はシリコンバレーのような郊外で形成されてきましたが、コンパクトなエリアの中に最先端のアンカー機関、企業、大学、研究機関等が集積し、イノベーションディストリクトと呼ばれる新しい都市モデルが生まれています。その物理的なコンパクトさ、交通の利便性、強力なイノベーションインフラによって特徴づけられ、構成要素の密度と近接性を活用し、協働とイノベーションを促進します。イノベーションディストリクトには、多様な起業家、思想家や最先端の技術、製品、サービスを市場向けに開発する専門家・研究者が関与しています。

■イノベーションディストリクトは、主に4つの類型に分類できます。

1. アンカープラスモデル

- 主に都会の中心部に位置しています。都市の中心部において、基盤資産や各種アメニティが高密度に集中している点が特徴です。これらの要素の集積により、特にバイオメディカルや情報工学分野において、才能ある人材や革新的な企業を引き寄せる磁石のような役割を果たしています。

2. 再構築された都市エリアモデル

- 歴史的なウォーターフロント沿いやその近くで、工業地帯や倉庫地区が変貌を遂げている場所によく見られます。使われなくなった都市部の工業用地を再開発し、イノベーションディストリクトを創出しています。

イノベーションディストリクトとは（その2）

3. 都市化されたサイエンスパークまたはオフィスパークモデル

- 都市中心部の外に位置します。隣接地域での人口密度の増加、交通の利便性向上、小売や飲食など多様な活動の導入を通じて、かつて孤立していた地域が統合された多機能型ハブへと進化しています。

4. ユニークアセットモデル

- 都市圏内のさまざまな場所に存在し、主に政府機関による数十年にわたる大規模な投資が特徴となっています。主要な大都市圏外や都市中心部の近隣の高性能な政府の研究開発施設や重要な施設が例として挙げられます。

【世界のイノベーションディストリクト】

- 代表例は、バルセロナ@22地区やMITがリードするケンドール・スクエアです。世界中で150以上のイノベーションディストリクトがさまざまな発展段階にあることが確認されています。日本では、イノベーションディストリクトに相当するエリアや街区が相応に存在すると思われますが、現状、その概念の理解や浸透はこれからという段階ではないでしょうか。
- イノベーションディストリクトは次の波が勢いを増しており、これは世界経済における構造的変化を反映しています。

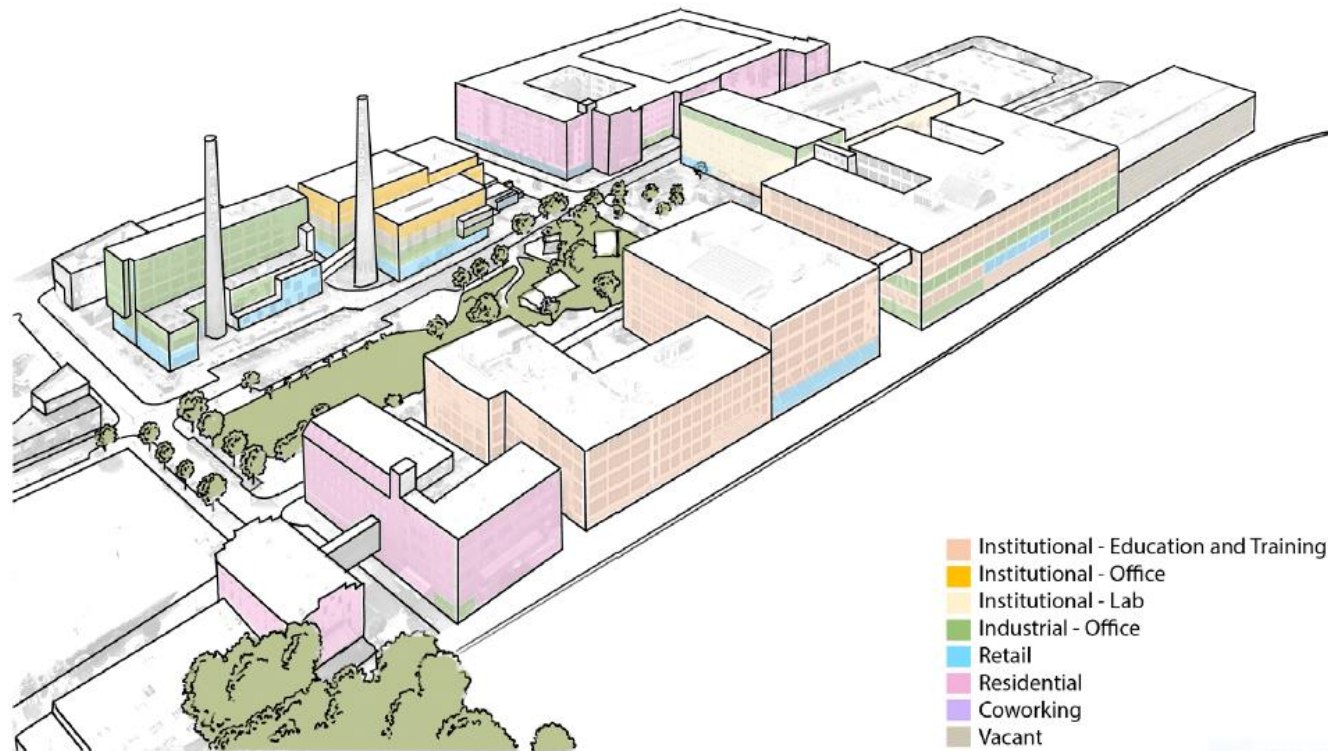


米国・Cleveland's Health-Tech Corridor
～イノベーションディストリクト一例



イノベーションディストリクトとは（その3）

イノベーションディストリクト・パース図



出典: GIID Innovation Districts and the Centrality of the Land
Research Brief 2 P21

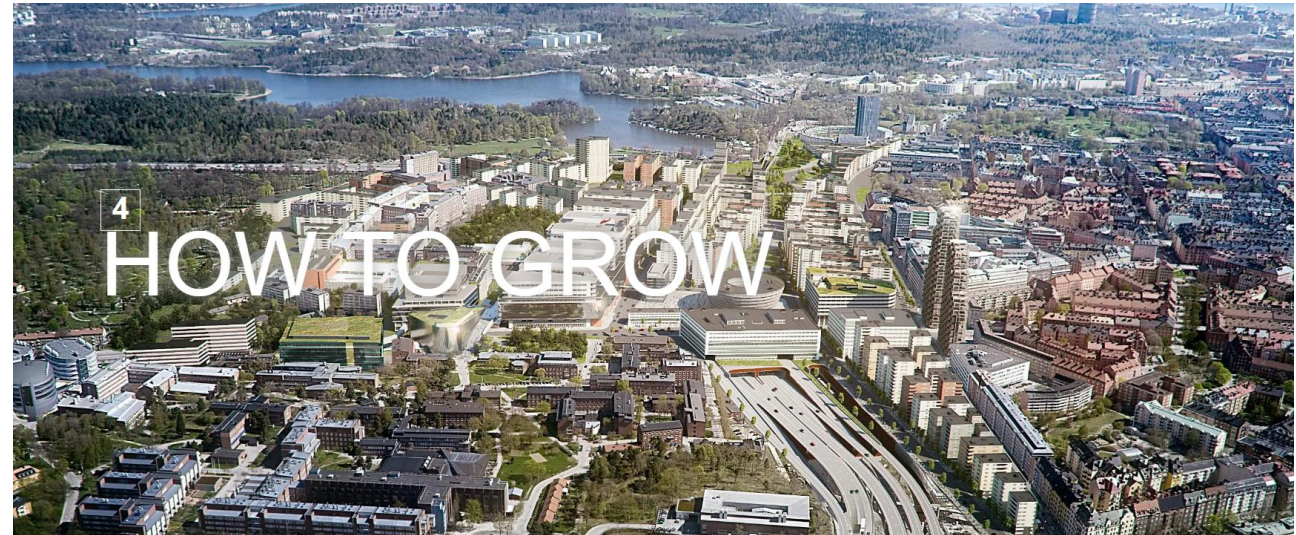
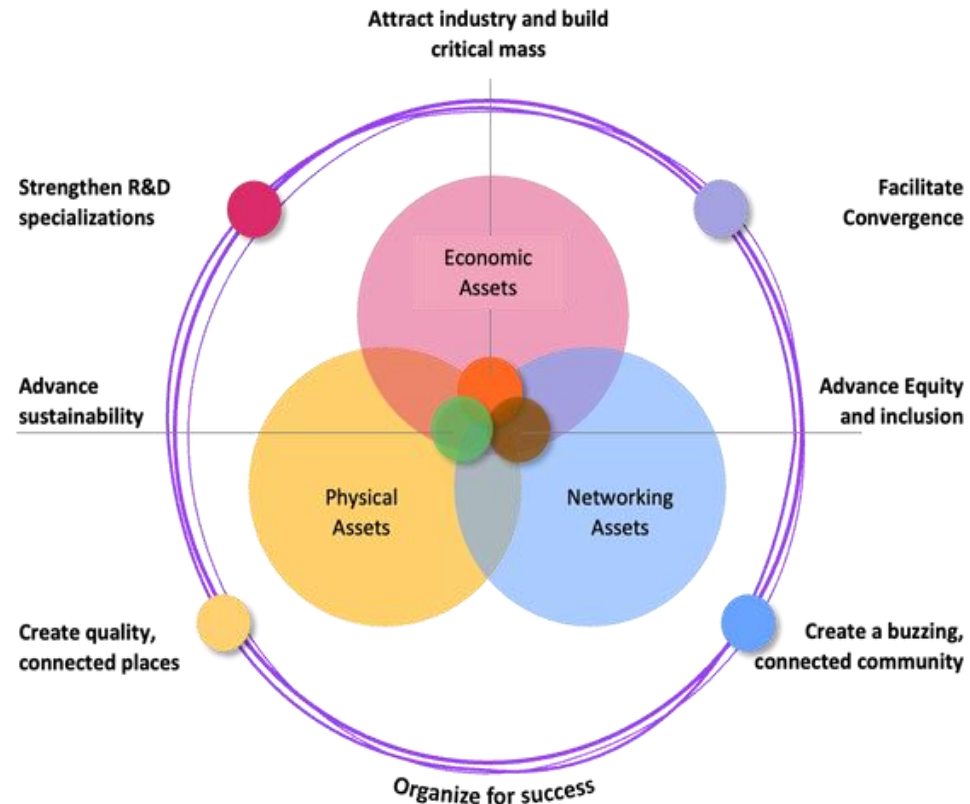
コロンビア・メデジン



イノベーションディストリクトとは（その3）

イノベーションディストリクトのための独自の価値提案の構築

ストックホルム ライフサイエンスシティ



出典: GIID research & insights for impacts P4

イノベーションディストリクトとは（その4）

2022年～2024年にGIIDグローバルネットワークに参加した45のイノベーションディストリクトは以下のとおり。

1. 16 Tech Innovation District（インディアナ州インディアナポリス、アメリカ）
2. 195 District（ロードアイランド州プロビデンス、アメリカ）
3. Advanced Manufacturing Innovation District（シェフィールド／ロザラム、イギリス）
4. Be'er Sheva Innovation District（ベエルシェバ、イスラエル）
5. BioDistrict New Orleans（ルイジアナ州ニューオーリンズ、アメリカ）
6. Brampton Innovation District（オンタリオ州ブランプトン、カナダ）
7. Buffalo Niagara Medical Campus（ニューヨーク州バッファロー、アメリカ）
8. Central Innovation District（デン・ハーグ／ハーグ、オランダ）
9. Children's National Research & Innovation Campus（ワシントンD.C.、アメリカ）
10. Cleveland Health-Tech Corridor（オハイオ州クリーブランド、アメリカ）
11. Cortex Innovation Community（ミズーリ州セントルイス、アメリカ）
12. Distrito de Ciencia, Tecnología e Innovación de Bogotá-Región（ボゴタ、コロンビア）
13. Distrito de Innovación de Ñuble（チジャン、チリ）
14. Distrito de Innovación Medellín（メデジン、コロンビア）
15. Gold Coast Health and Knowledge Precinct（クイーンズランド州ゴールドコースト、オーストラリア）

イノベーションディストリクトとは（その5）

16. Haifa Innovation District（ハイファ、イスラエル）
17. Halifax Innovation District（ノバスコシア州ハリファックス、カナダ）
18. Innovation District Monterrey（モンテレイ、メキシコ）
19. Innovation Quarter（ノースカロライナ州ウィンストン・セーラム、アメリカ）
20. Ion District（テキサス州ヒューストン、アメリカ）
21. Keystone Innovation District（ミズーリ州カンザスシティ、アメリカ）
22. Klybeckplus（バーゼル、スイス）
23. Kenniskwartier（ナレッジ・クォーター） Zuidas（アムステルダム、オランダ）
24. Liverpool Innovation Precinct（ニューサウスウェールズ州リバプール、オーストラリア）
25. Lot Fourteen（サウスオーストラリア州アデレード、オーストラリア）
26. Lund Innovation District（ルンド、スウェーデン）
27. Malmö Startup District（マルメ、スウェーデン）
28. Melbourne Innovation Districts（City North）（ビクトリア州メルボルン、オーストラリア）
29. Innovation District（TBA）（カリフォルニア州サニーベール、アメリカ）
30. Monash Technology Precinct（ビクトリア州メルボルン、オーストラリア）

イノベーションディストリクトとは（その6）

31. Nagaoka City Innovation District（長岡市、日本）
32. Norfolk Innovation Corridor（バージニア州ノーフォーク、アメリカ）
33. Oak Ridge Corridor Innovation District（テネシー州ノックスビル、アメリカ）
34. Oklahoma City Innovation District（オクラホマ州オクラホマシティ、アメリカ）
35. Oslo Science City（オスロ、ノルウェー）
36. Paju Medical Cluster（坡州市、韓国）
37. Phoenix Bioscience Core（アリゾナ州フェニックス、アメリカ）
38. Pittsburgh Innovation District（ペンシルバニア州ピッツバーグ、アメリカ）
39. Randwick Health & Innovation Precinct（ニューサウスウェールズ州シドニー、オーストラリア）
40. Tech Central（シドニー、ニューサウスウェールズ州、オーストラリア）
41. The LinQ（テキサス州マンスフィールド、アメリカ）
42. Tonsley Innovation District（サウスオーストラリア州アデレード、オーストラリア）
43. UNSW Launch（オーストラリア首都特別地域キャンベラ、オーストラリア）
44. Utah Tech Innovation District（ユタ州セントジョージ、アメリカ）
45. Westmead Health and Innovation District（ニューサウスウェールズ州シドニー、オーストラリア）

RMIT エグゼクティブ研修・募集要項

- 期 間：2025年11月7日（金）、10日（月）、11日（火）【現地集合・現地解散 3日間】
- 研修会場：RMIT Europe Cornerstone Complex, Barcelona
- 利用言語：英語
- 募集定員：20名
- 研修代金：正会員特別料金 900,000円（別途、消費税等90,000円）
一般料金 1,200,000円（別途、消費税等120,000円）

<代金に含まれる費用>

- 現地研修費用
- 事前学習費用（RMITオンライン講座受講費、イノベーションディストリクトに係る教材等）
- **航空券および現地での移動費、ホテル代は料金には含まれておりません。**
- **ご希望の方には、JTBを紹介します。**

■ 正会員会員特典の利用について

SCI-Japan／正会員Aの皆さまは、会員無料特典（※）を行使することができます。

（※）正会員Aには、每期、年間1名様 of 無料招待枠（25万円相当）が付与されます。

過年度の未使用枠があれば、それも利用可能です。

なお、無料特典は、本プログラムか、海外視察研修、OASIS研修、C-R MAP研修（税抜12.5万円／1名、2名無料ご招待）のいずれかにご利用いただくことができます。詳しくは、SCI-Japan事務局までお問合せください。

- 申込期限：2025年8月28日(木)予定 ※ただし、定員に達し次第、締め切りますので、お早めにお申込みください。

RMIT : ロイヤルメルボルン工科大学

- RMITは1887年から130年以上の伝統を誇るオーストラリアを代表する国立大学です。RMITは南半球最大の都市研究ハブであるCentre for Urban Researchを擁し、都市の持続可能性に関する研究を推進しています。メルボルンを本部に、ベトナムのハノイとホーチミンにキャンパスを、バルセロナに欧州本部として研究所を有している国際的な大学です。オーストラリアのキャンパスに6万人以上、ベトナムのキャンパスに1万人以上在籍しています。工学、デザイン、建築、国際ビジネス、保健医療などに強みを持つ、オーストラリアを代表する大学で、大学院を有しています。
- RMITはメルボルンの中心地にメインキャンパスを構え、キャンパスおよび周辺地域はイノベーションディストリクトとして世界的に有名です。ビクトリア州政府と州都メルボルンは、2017年に野心的な戦略的首都圏成長計画を策定し、RMITはメルボルンの都市計画・開発に深く関与しています。
- RMITの開発したLiveability Indicatorは、メルボルンをはじめとするオーストラリアの主要都市において都市設計・運営の政策手法として採用されており、SCI-Japanの地域幸福度指標（LWCI）の源流となっています。
- RMITとSCI-Japanは2023年11月にMOUを締結し、今回のRMIT研修も協働を具現化したものとなります。RMITとSCI-Japanは、Liveability Indicatorの第一人者であるMelanie Davern RMIT教授をSCI-Japanのエグゼクティブアドバイザーとして迎えており、お互いに重要なパートナーとして協働・研究を推進しています。

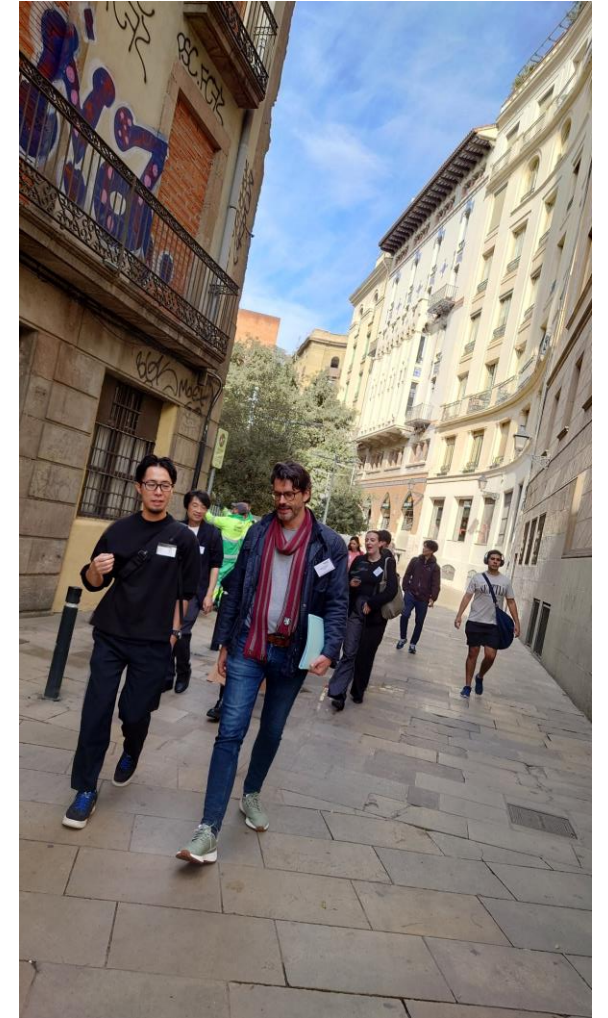
<https://www.rmit.edu.au/profiles/d/melanie-davern>



2024年RMIT一日研修・講義風景



2024年RMIT一日研修・現地視察（街歩き）



Smart City
Institute Japan



RMIT一日研修・RMITバルセロナ研修会場



Smart City
Institute Japan



お申込み・問い合わせ先

本研修へのお申込み・問い合わせは以下のFormsリンク、またはQRコードよりお願いします。

<https://forms.office.com/r/gFK1xiZ5Q5>



- **お問合せ先**：一般社団法人 スマートシティ・インスティテュート事務局
 - 担当 工藤
 - Tel 03-6733-1608
 - Email digital-society@murc.jp
 - 公式サイト <https://www.sci-japan.or.jp/>